

経営比較分析表（平成29年度決算）

北海道稚内市 稚内こまどり病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床未満	自治体職員 その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
34,834	4,570	第2種該当	25:1	

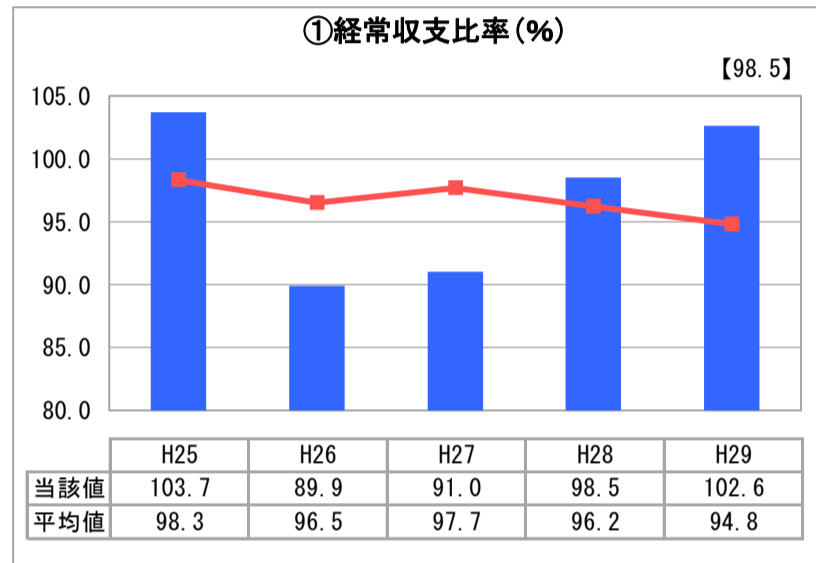
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

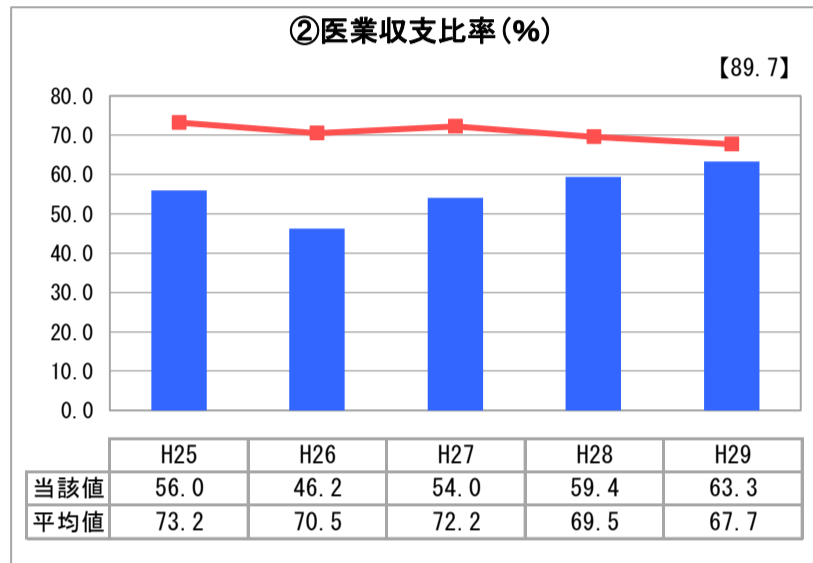
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	45
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	45	45

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成29年度全国平均

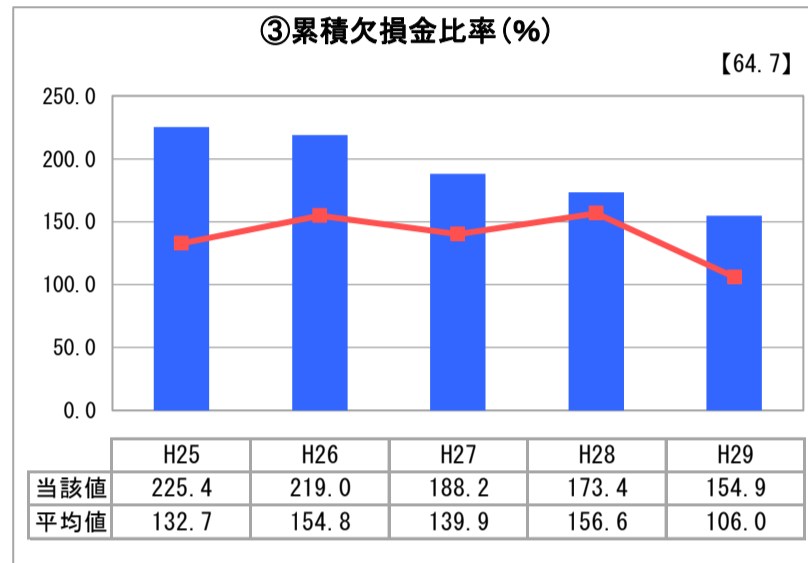
1. 経営の健全性・効率性



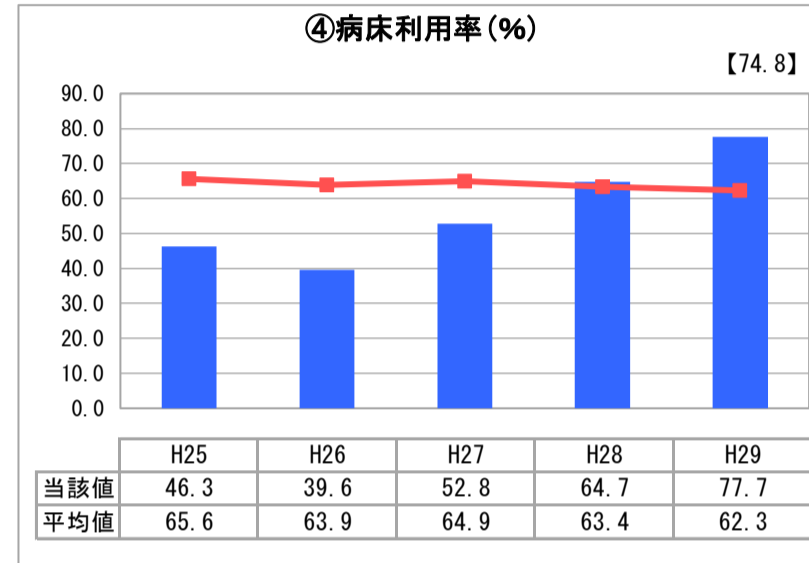
「経常損益」



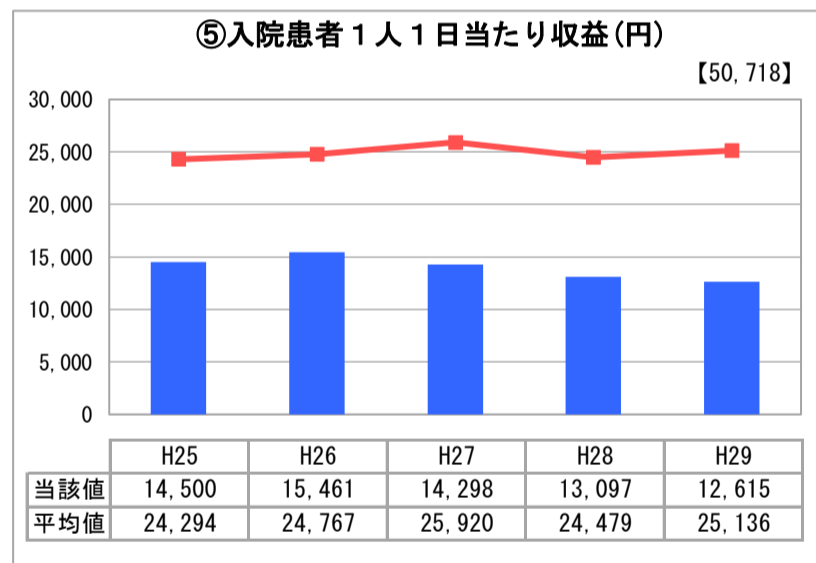
「医業損益」



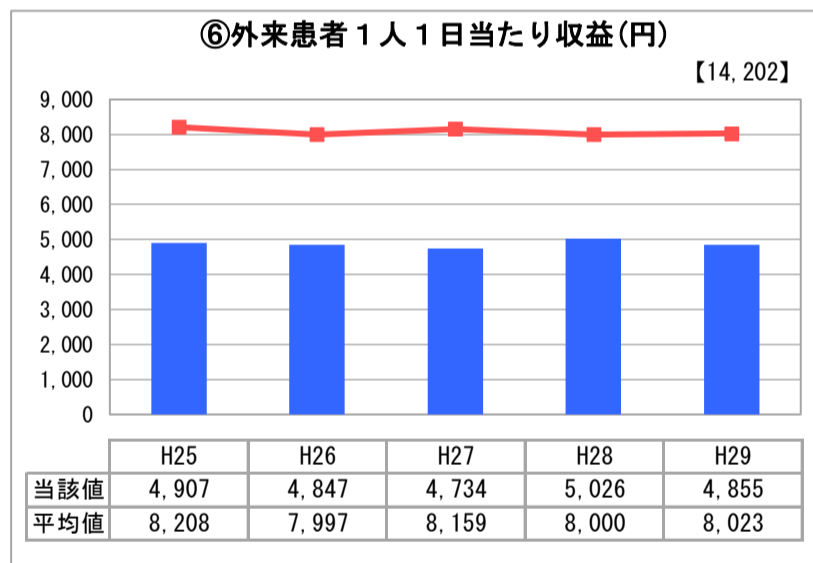
「累積欠損」



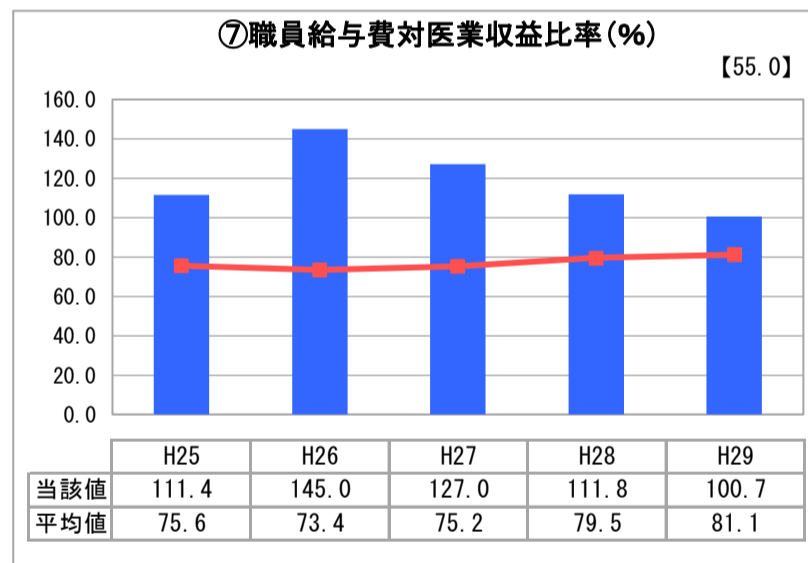
「施設の効率性」



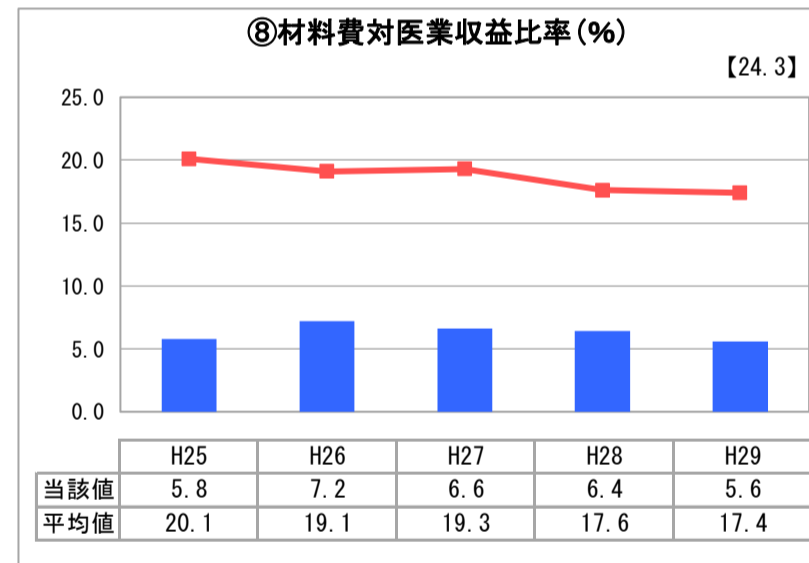
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

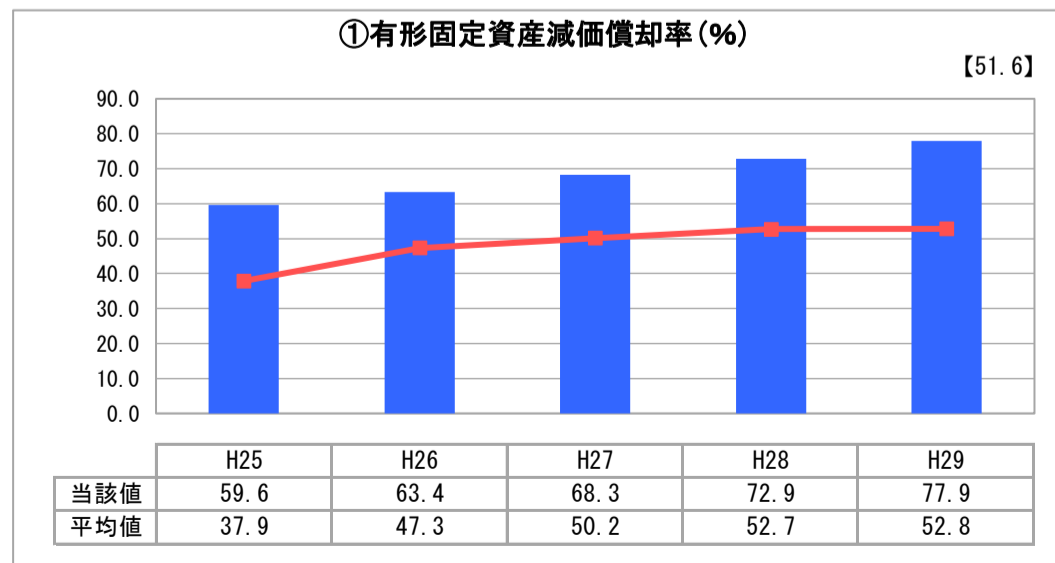


「費用の効率性①」

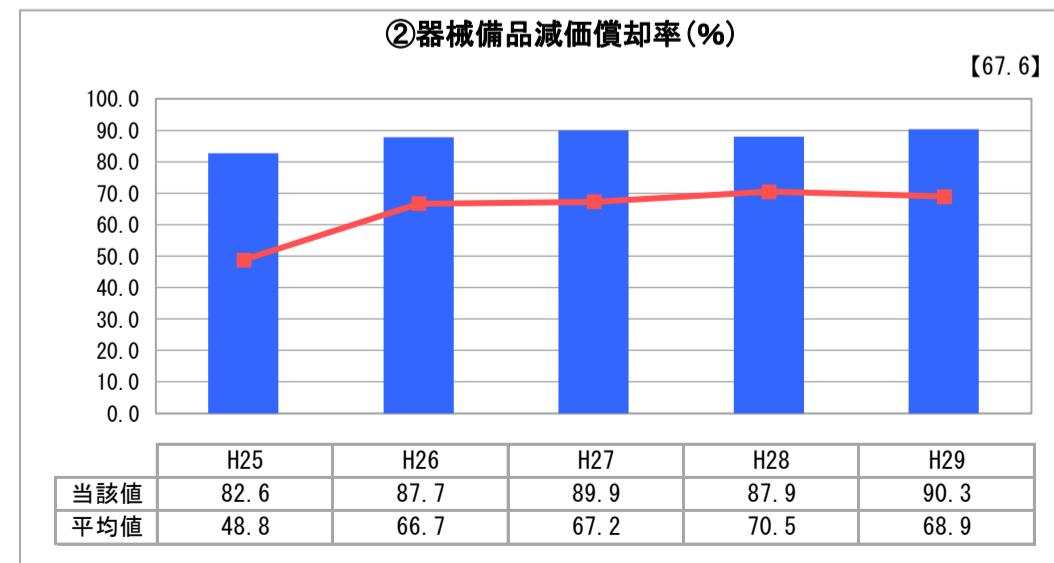


「費用の効率性②」

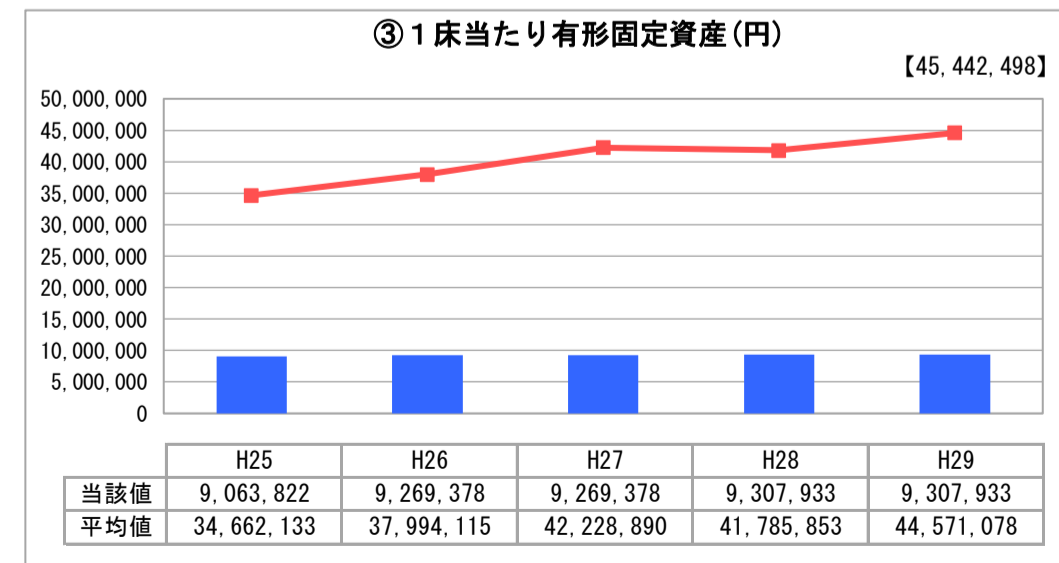
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

平成15年3月に当時の国立療養所稚内病院の移譲を受け、当該地域において不足していた療養型病院としてスタート。宗谷二次医療圏域において、限りある医療機関での機能分化として急性期病院の役割を担う市立稚内病院（本院）と、慢性期医療を必要とする患者を受け入れる市立稚内こまどり病院（分院）、そして在宅・介護関連事業所との連携体制し、患者の症状や病態にあった医療サービスの提供を行う。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成18年度の診療報酬改定において、特に、療養病床の削減計画と新たな医療区分の導入に伴う再評価によって診療単価が大幅に引き下げられた。さらに、平成28年度の診療報酬改定では新たに入院基本料の算定要件として重症度割合が追加され、平成29年度においても算定要件を満たすことが出来ず、入院基本料は5%減額、1人1日の入院単価は大幅な減少となったが、本院及び市内在宅介護関連事業所との連携強化により入院患者が増加し、収支は改善された。

2. 老朽化の状況について

国立病院再編成計画に基づく廃止に伴う譲渡を受け、療養型病院として療養病床の基準を満たすための改修及び付帯設備等について改修を行ったが、国立時代の全面改修も昭和53年頃で、こまどり病院も開設して15年経過し、毎年度、部分的な修繕で対応しているが、付帯設備等は全面的な改修を必要とする。

全体総括

今後においても、高齢化の進展に伴い、医療機能の「分化・連携」を進める中で、慢性期医療の重要性を再認識し、本院の後方支援病院としての役割を果たすとともに、稚内市地域包括支援センターをはじめとする在宅介護関連事業所との連携のもと、地域にとって必要な慢性期医療の提供に向け取り組む。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。